

ふるさと 文化の継承



石垣市長

大濱 長照 氏

子供たちがふるさとを離れている時や、大人になった時に、ふるさとの文化や歴史、伝統を大事にし、誇りに思う街づくりは、私たち大人の

責務であると思っています。その意味からも子供たちへの文化の継承が大切なになります。特に、急速に消えつつある方言（島の言葉）には子供たちが数多くふれてほしいとの思いがあり、一生懸命に地域の方言を入れながらあいさつをするよう心がけております。

幸いなことに、本市は、亜熱帯に属し植物や動物の種類も多く、自然が豊かな島と共に「詩の国、歌の国、踊りの里」として、郷土芸能の盛んな島ですので、各集落にはそれぞれ

独特の芸能を保持しており、大事にしています。このように恵まれた豊かな環境を活かした「三味線」「郷土芸能」などの地域学習も「総合的な学習の時間」に取り入れられ、各学校で実践されていることを嬉しく思っています。

（おおはま ながてる）



教育随想

岡崎の教育

月報



平成15年12月1日

12月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
石垣市長	大濱 長照氏
この人に聞く	2
岡崎紀友会主宰	高瀬 紀子氏
羅針盤	2
北野小学校長	富田 勝男
ふれあい	3
矢作北中	黒柳 公貴
特集	4
見たよ やったよ 学んだよ	
—小学校修学旅行の今—	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
新たな礎を築く（昭和56年）	
—開校式・入学式・始業式—	
この本を	8

この人に聞く

ふるさとシリーズ



箏とともに

岡崎紀友会主宰

高瀬 紀子 氏

間近に迫った名古屋電気文化会館での演奏会を控え、箏の練習に勤む高瀬さんの自宅を訪問した。

高瀬さんは現在、週二回お弟子さんに箏の指導をしながら、自らも練習に励む日々を過ごされている。

箏を始めたきっかけをお聞きした。「母の話では、おなかにいるところから箏の音を聞いていたとのことです。物心ついたころには、母親がお弟子さんに箏を教えているのを、そばにいてじっと見ていました。箏が近くにあったので、箏で遊ぶことも多かったですね。楽譜が読めない年ごろでしたが、箏曲を耳と体で覚え

てしまったような気がします。」

昭和三十七年、単身東京へ行き、宮城宗家へ内弟子として入門。箏の練習のみならず、人間としての品位についても学ばれた。辛く苦しいこともあったが、そんなときは、父親の言葉を思い出されたという。「目標を立ててやろうと思ったことは、人並みにやっていたんでは人並みになれない」。その言葉に幾度も支えられ、現在の自分があるとしみじみと語っておられた。

箏を教えていて、常に心がけていることを伺うと、

「恩師宮城喜代子先生に、『芸を磨くこと、人として品位のあること、情愛をもって接すること』が大切と教えられました。今はそれを座右の銘にしてお弟子さんに接しています。自分自身を磨くことが、みんなに箏の心を伝えていけることだと信じています。自分が努力しなければ、何も伝わらないと常に自分に言い聞かせてきました。」



と熱く語られた。

高瀬さんがアメリカ演奏旅行の折りに、外国の人は自国の伝統音楽を自信を持って他国の人に紹介できないと感じられたという。指導要領の改訂により、日本音楽が鑑賞のみの扱いから、演奏体験を行うようになった。学校の授業の中に和楽器が取り入れられ、子供たちが楽器に触れる機会が増えたことを心から喜んでおられた。

最後に、子供たちへのメッセージをお願ひした。

「私の場合は箏でしたが、どんなことでも一つのことに一生懸命やれる人はいろんな意味で人間として成長していくんだと思います。今の時代、浅く広くも大切なことかもしれませぬ。しかし、一つのことには一生懸命取り組めば、それが他の様々な場面への自信につながると思います。」

全国規模で活躍されている高瀬さん。近寄りがない存在のようではあるが、選択授業や講演会ですでに市内外の学校に向いた経験をお持ちである。「私でお役に立てるようなことがあれば」と心強いお言葉をいただいた。

氏名 高瀬 のりこ
生年月日 昭和十八年七月十七日
住所 福岡市御坊山四〇一五
Eメール takase@sinfontia.or.jp
ホームページ http://www.sinfontia.or.jp/~takase/



尊敬される教師に

北野小学校長

富田 勝男

「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響あり、沙羅雙樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらわす。」

高校一年のころ、S先生の古文の授業を受けた。先生はいきなり、指示棒を片手にリズムをとりながら教科書に書いてある平家物語の全文を朗読された。琵琶こそ持たれていなかったが、リズムカルに楽しそうに物語を語ってくださった。

恩師や先生方の中には、いろいろな特技をお持ちの先生がおられて、びっくりしたり感心させられたりしたことが多い。

全文を暗記して披露してくださったS先生もその中の一人だ。他に数学のT先生はコンパスを使わないでほとんど正確に円を書く技術を見せてくださったし、地理のK先生はフリーハンドで日本地図や世界地図を



R男の成長

矢作北中学校 黒柳 公貴

「先生、俺、試合に負けたことより、もうこの仲間とバレーができないことのほうがつらい。」

全国大会最後の試合が終わわり、生徒たちがそれぞれの思い出を語り始めた時、R男が突然言い出した。だれよりも自分を高めようとしていたR男は、だれよりも仲間を大切にする男に成長していたのである。

R男は、北野小出身。特に背が高いわけでもなく、飛びぬけた運動能力もなかった。

矢作北中バレー部では、北野小と矢作東小から入部してきた生徒は、全国大会を経験してきた矢作北小の生徒を超えなければ選手になれない。だから、入部する時の生徒たちの覚悟は、並のものではなかった。そんな北野小出身者の中にR男はいた。

もちろん彼の目標は、「レギュラー獲得!」。そして、「全国大会出

場!」だった。しかし、技術の差はなかなか埋まらず、苦悩の日々が続いてきた。ただ、だれに対しても励ましの声をかけ、妥協しないその練習態度は、チームにとってなくてはならないものになっていた。

冬が明け、春。初めは、ムードメーカーとして時々起用していたR男に、華が咲き始めた。黙々と練習してきたスパイクが試合で威力を発揮し始めたのである。そして、ついに総合体育大会の時には、レギュラーを獲得。R男は、八月の東海大会に向け、着実に進化を遂げ、彼の活躍で全国への切符を手にすることがで



きた。R男が一番喜んだ瞬間だった。念願の全国大会。しかし、予選から強豪との対戦。とてつもないスパイクを叩き込んでくるチームに、苦戦を強いられた。

(負けるかも...) 心の中で感じ始めた時、R男にサーブ順が回ってきた。R男は、ちらつとこちらを見ると、いつもの位置から三メートルも下がり、思いきってサーブを打ちこんだ。監督として心臓が止まりそうな時間が流れた。しかし、その猛烈なサーブは、線を描いたように相手コートに決まった。チームは一気に盛り上がり初戦を勝利で飾った。R男が、チームを救ったのである。

そして、勢いに乗った矢作北中は、全国大会準々決勝まで勝ち上がり、その年の優勝チームに対して、唯一フルセットまで追いつく活躍をした。しかし、全国ベスト8で、生徒たちの夏が終わった。

バレーを通してたくさんの方をつかんだR男。くじけそうになった自分を支えてくれた仲間の大切さを学んだR男。

「先生こんにちは。」

春の高校バレーに向けての練習の忙しい中、R男は今日も仲間を連れて後輩の指導に来てくれる。

ほとんど正確に描かれる技術をお持ちであった。

このように特技をお持ちの先生方に共通して感じられたことは、プロ教師としての気概をお持ちであったことだ。教材研究や児童・生徒理解にとっても熱心に取り組まれ、意欲的に授業を展開されていた。また、それぞれ夢を持ち、自分自身でも追究したい課題を持たれていた。

我々教師には、日ごろからいろいろ多くのことが求められている。その全てを自分の力だけで行うことはできない。いろいろな事に力を入れるといっても人間の能力には限りがある。力のある方に協力していただいて子供たちに本物の素晴らしさを体験させることも意義深い。

しかし、子供たちの一番身近にいる教師に実力が備わっていれば、子供たちへの影響力は大きい。

子供たちは、教師自身が教えている教科が好きかどうか、本能的に見分けている。教師が、その教科を楽しんで学んだり教えたりしてれば、教わっている子供もそのことに興味を持つことが多い。

教育のプロとして教育力の向上や自己啓発に積極的に取り組む教師は、だれからも尊敬される。



▲ 清水寺のライトアップ見学

小学校修学旅行見学地一覧

	主な見学地	その他・体験活動
奈良方面	法隆寺	西大寺
	南大門	唐招提寺
	大仏殿	宇和奈辺古墳
	正倉院	平城宮跡・朱雀門
	二月堂	奈良国立博物館
	三月堂	石舞台古墳
	春日大社 宇治平等院	飛鳥寺 など
京都方面	金閣寺	清水寺夜間拝観
	銀閣寺	青蓮院夜間拝観
	清水寺	知恩院・広隆寺
	三十三間堂	京都タワー
	二条城	嵯峨-亀岡トロック列車
	映画村	保津川下り
	嵐山	ししゅう館
		生八ッ橋作り体験 清水焼絵付け体験 友禅染体験 など
交通	・ 奈良-京都の私鉄利用も増えている。	
	・ 1日目に京都、2日目に奈良の見学行程の学校もある。	

小学校の修学旅行。友達と初めて出かけるこの旅行を、子供たちは本当に楽しみにしている。

子供たちに楽しい思い出を、というのはもちろん、この機会に多くのことを吸収し、より豊かな心を持つてほしいと思うのは私たち共通の願いである。そこで、自国の文化を理解したり、自然の移ろいに目をやる感性を伸ばしたり、自主性や協力を身に付けたりと、ねらいによって行程を工夫する学校が増えていく。従来の修学旅行のよさを十分に生かしている学校があれば、新しい試みを行う学校もある。

普段は見られないもの、体験できないこと、感じられないこと、それら友達と経験したことを、子供たちはずっと忘れないだろう。帰って旅行記をまとめ、発表するなどの活動も、子供たちにとって楽しく、学んだことを深めていく機会になるに違いない。



◀ 保津川下りを楽しむ子供たち



▲ インターネットで見学地の事前調査



▲ 大樹寺を訪れ和尚さんから見学地の話を聞く学習

事前学習



▲ おいしくできた生ハッ橋作り

体験活動



▲ 清水焼の絵付けに挑戦



▲ トロッコ列車の車窓からの景色を楽しむ子供たち



▲ 英会話カードを準備して金閣寺で外国人と交流



▲ 宿に舞妓さんを招き踊りを見学



● 教育最新情報

○ 教員研修の充実

本市が平成十五年度から中核市になったことにより、多くの研修事業が市独自で実施できることになった。そして今年度は、新任教員を対象とした初任者研修、経験に即した体系的な研修の一環としての五年経験者研修と十年経験者研修、さらに、新任保健主事研修、新任学校給食主任研修を県から委譲され、市独自で実施している。

また、県が平成九年度から行っている社会体験型教員研修についても、内容や方法を大きく改め、岡崎市小中学校(園)社会体験型教員研修として新しく実施することにした。以下、主となる三つの教員研修について述べる。



〈初任者研修〉

教育公務員特例法の規定に基づき、実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得させることを目的としている。近年の教育情勢の変化に対応するために、拠点校指導教員の導入など、今年度大幅な見直しが行われた。

本市では、これを契機に次の点を考慮して、研修のより効率化を図り、二十五日間の校外研修を実施している。

○ 修得内容を受講年度内でも生かせるように、研修を一期及び二学期前半までに集中して行う。

○ 子供とふれ合う時間をできるだけ確保するために、体験活動を取り入れた終日研修を夏季休業中に実施する。

○ 接遇研修、水難救助・安全指導研修、市内教育施設巡回

研修など、岡崎の教育に即した内容を多く取り入れる。

○ 教科・領域基礎研修や教育研究大会、各種研究会との連携を図る。

これらを意図的・計画的に構成し、岡崎の子供たちのために一日も早くプロ教師としての自覚と力量がつくようよう実施している。

ちなみに、今年度岡崎市の新規採用教員は八十七名で、五名の免除者を除く八十二名が初任者研修を受講している。

〈十年経験者研修〉

平成十五年度、新たに法定化された研修である。研修対象者の能力・適性等を評価し、その結果に基づいて計画書を作成して実施している。

十六日間の校外研修の中には、社会の構成員として視野を拡大し、対人関係能力の向上を図ることを目的にした社会体験研修を三日、教育を幅広い視点から見つめ、自らの教育活動の充実・活性化を図るための異校種体験研修の二日

が義務付けられている。今年度の受講者は三十五名

である。

〈社会体験型教員研修〉

社会の急激な変化に対応した教育を進めるために、教員が民間企業や福祉施設等で体験研修し、豊かな見識と広い視野に立った教育力を培い、教員の資質向上を目的にした新規事業である。

県が教育事務所単位で二、三名を民間企業等に二か月間派遣しているのに対して、本市は、学校現場の実情を考慮して、同一研修先で研修期間を夏季休業中の連続する一週間とし、十名を派遣することにした。この方法により、非常勤講師を充てる必要がなく、授業や学級の子供と過ごす時間確保も可能となった。



▲ イオン岡崎SC (カプリチョーザ)での体験研修の様子

第一回の今年度は、研修先をイオン岡崎ショッピングセンター内の一三〇店舗から研修者が選択した。いずれも初体験で不安を抱えたまま臨むことになったが、研修後の報告会では、貴重な体験を通して得た多くの成果が発表された。その一部を紹介する。

▽客あつての企業という考え方を、子供あつての学校と置き換え、子供の気持ちや保護者、地域の願いに対してアンテナを高くし、より速く対応する必要があると感じた。
▽挨拶一つをとっても、相手を大切にして接するという構えで実践していきたい。
▽経営を改善し続けるために目標を数値化し、短期間ごとに見直す姿勢を、教科指導や評価に生かしたい。
▽商品に愛着をもつ店の方の姿から、一人一人の違いやよさに目を向け、子供を好きでいることの大切さを学んだ。
▽客が季節感のある展示を楽しむ様子から、教室掲示も新しいものを取り入れ、楽しみのある環境づくりをしていく必要性を実感した。

岡崎市教育委員決定

委員長 寺部 暁 (前列 左)
 同職務 鈴木 聰一 (前列 右)
 代理者 大原 憲一 (後列 左)
 委員 仲井 さち (後列 右)
 教育長 藤井 孝弘 (後列 中央)



表彰

第三十四回博報賞

・特別部門 秦 梨 小
 「子どもたちが生き生きと学ぶ場を作っている教育実践活動」―里山再生計画

高岡宮杯日本中学校英語弁論大会

・最優秀賞 林 知輝 (霧山中)
 ・優秀賞 遠藤紫美良 (河宮中)
 佐藤弘幸 (葵中)
 山本晃一郎 (矢作中)

愛知県中学校力ヌー大会新人戦

・男子総合の部優勝 新香山中
 ・女子総合の部優勝 新香山中

FBCコンクール秋花壇

・奨励賞 六ッ美中部小
 細川 小

中部日本吹奏楽コンクール本大会

・中学小編成 準優勝 新香山中
 ・県中学生アーチエリー大会

・30M女子一位 緒方ほか (東海中)

◆三河地区ロボットコンテスト
 ・あの壁を越えろ部門
 一位 布施大樹 (葵中)

◆第七回東海小学校バンドフェスティバル
 ・グッドサウンズ賞 竜美丘小

西三河駅伝競走大会

男子 一位 美川 中
 三位 城 北 中
 女子 一位 六ッ美中 A
 三位 六ッ美中 B

第47回愛知県統計グラフコンクール金賞受賞者

そのうち㊦は全国コンクール特選
 ㊧は全国入選、㊨は全国佳作

小学校1年～2年の部 金賞

㊦ 齊藤 慶	矢作東小	2年
神谷 駿	矢作東小	2年
鋤柄 健人	六ッ美南部小	2年
星野 拓実		

小学校3年～4年の部 金賞

㊧ 山本 拓	竜美丘小	4年
野澤 有佑	六ッ美南部小	3年
和田 彩花	矢作東小	3年
㊦ 下里 杏奈	三 島 小	4年
石川 華子		
㊦ 米沢安優香	三 島 小	3年

小学校5年～6年の部 金賞

鈴木美菜子	竜美丘小	5年
㊦ 大久保 愛	竜美丘小	5年
㊦ 森下 藍	矢作東小	6年
㊧ 蟹江 遙	矢作東小	5年
荒川 弦矢	矢作東小	5年

中学生の部 金賞

植田 千紘	竜 海 中	3年
㊦ 前川 浩隆	新香山中	2年
㊦ 山下恵理奈	竜 海 中	3年
㊧ 永尾 綾	新香山中	3年
阿部 真弓		

パソコンの部 金賞

平岩 篤志	六ッ美北中	1年
竹内 愛理	竜 海 中	3年
㊧ 内田 百香	山 中 小	5年
小林真菜美		
高木 康見	甲 山 中	3年
小串 拓也		
稲吉 秀紀		
坂田 賢治	根 石 小	6年

少年自然の家だより

火星の大接近を観る会

六万年ぶりの火星の大接近を観ようとして五十家族を募集したところ、一二八家族の申し込みがあった。はがきに書かれた「ぜひ本物を見せたい」との切実な親心に、当初九月十三日だけの予定を十四日も開催することになった。

田峰天体観測所の四名の先生方の楽しいお話と、赤いぼんやりとした中に南極冠を見せる火星に親子の歓声が上がった。

幸い両日とも天気恵まれ、五〇〇人弱の参加者たちは満たされた思い出に残る須淵の夜を過ごした。

第五回ネイチャークラブ

六月に植えたサツマイモの収穫と収穫祭、そして焼き芋を食べる会を十月十八日(土)に実施した。

今年冷夏やイノシシの襲来などで、サツマイモの生育が心配されたが、いざ掘り起こしてみると、小さな芋が多くなか、大きな芋を掘り当てるたびに歓声があき起こった。

また、収穫祭では、北中の生徒に指導してもらい、北中名物のソーラン踊りを体育館いっばいに踊り収穫を祝った。その後、ほかほかの焼き芋を会員全員で味わった。

○秋の史跡探訪オリエンテーリング
 十月二十五日(土)、穏やかな行楽日和の中、二歳の子



▲ サツマイモの収穫 (ネイチャークラブ)

供から六十二歳の高齢者まで二十七名が参加した。
 自然の家を出発し、古部町の孝婦「とら」や切越町の八面塔などを目指し、例年に比べややハードなコースであったが、スタンプラリー形式で林道を十二キロ、家族ごとに歩いた。紅葉の始まる山々を眺め、気持ちのよい秋の一日を過ごした。

・カ
ツ
ト
河
合
中
高
橋
誠

新たな礎を築く —開校式・入学式・始業式— (昭和56年)

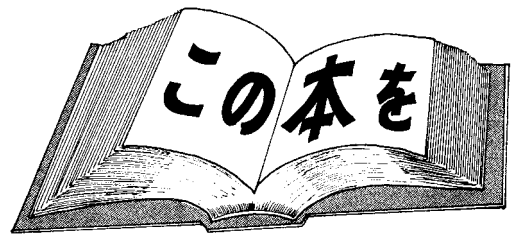
写真提供：矢作北中学校



過大校解消にともない矢作中学校から分離し、岡崎市における十五番目の中学校として、矢作北中学校は開校した。

初年度は、生徒数五六五名、三年生不在という変則的なスタートとなり、体育館がないなど、施設面でも十分ではなかった。水泳の授業も、歩いて一号線を渡って矢作中学校まで出かけ、プールを借りて行われた。

これ以後、八つの小中学校が産声をあげた。統一された制服がなかったり、校歌が定まっていなかったりと、不十分なまま門出を迎えたケースもあった。しかし、どの学校においても、新たな礎を築いていこうとする意気込みは、熱く力強いものがあった。



- * 釈迦 瀬戸内寂聴 ￥1900
新潮社
- * ユーモアのレッスン 外山滋比古 ￥740
中公新書
- * 無名 沢木耕太郎 ￥1500
幻冬舎
- * 親のころ 木村 耕一 編 ￥1500
1 万年堂出版

* 老いは生のさなかにあり 津本 陽
幻冬舎 ￥1600

人の生き方は様々である。老境に達して自然に心身共に老いていく生き方もあればなお旺盛な行動力を発揮し、老いを感じさせない生き方もある。

本書は、徳川家康、豊臣秀吉、勝海舟、親鸞等、晩年になってもなお衰えを知らぬ行動力を持った12名の歴史上の偉大な人物にスポットを当て、その後半生を検証したものである。豊富な資料と丹念な分析により描かれたそれらの人物のエネルギッシュな生き方は、大変興味深く、読む者の心を捉えて離さない。

驕りがあつたとしてもいうのだろうか。教員による不祥事。この一年、やるせない思いで報道に耳をやる日が多かった。子供は大人の後姿を見て多くを学ぶ。教員の背中は、特にしゃんとしていなければならぬ。率先垂範。この言葉の意味をもう一度考え直し、子供と接したい。

霜の降りた地面が白く輝く。冷たく冴えた朝が来る。道を行く人も白い息を吐き足早になるが、この潔いまでのすがすがしさはどうだろう。

詩人高村光太郎は「冬よほくに来い」と詠った。厳しさに耐えようという、熱い決心を呼び起こす季節が来た。

シオ スア

厚手の服を脱ぎ、外へ飛び出していく子供たち。身体全てを使って遊び、額に汗して教室に戻ってくる。いつ見ても、すがすがしい風景である。

二期。多くの行事、授業の中がかかわり合いを持ち、成長してきた。今、新たな年へ思いを馳せている。

スケジュールを見ただけでも一昔前とは大きく変わったことを実感する修学旅行。清水焼の絵付けや舞妓さんのふれ合いなどが織り込まれてきた。しかし、お土産をかばんいっぱいにして、出迎える家族に笑顔でこたえる子供の姿は、今も昔も同じである。